

平成 26 年 5 月 20 日

## 風しん撲滅に向けた九都県市共同での取組みについて

神奈川県知事 黒岩 祐治

平成25年に大流行した風しんの国内患者数は14,357人、妊娠初期の女性が感染し、出生した子に白内障、心疾患、難聴などの障害が表れる先天性風しん症候群は32人発生した。

20代から40代を中心に抗体を保有していない者が全国で約475万人(男性397万人、女性78万人) いると推計されていることから、今後も周期的に流行する可能性が高く、平成32(2020)年の東京五輪など、多くの人が訪れる際に、感染が拡大することも懸念される。

国内患者数の約45%、先天性風しん症候群の約63%を占め、20~40代が多く居住する九都県市においては、広域的な危機管理の一環としての取組が必要である。

神奈川県では、平成26年度から「風しん撲滅作戦」として、「①神奈川で風しんの流行を発生させない」「②今後、妊娠する人から先天性風しん症候群を出さない」ことを目指し、広報用映像・ポスター・チラシ等の作成や、予防接種や抗体検査を行う際の補助などの取組を行っている。

風しんの撲滅は、国全体で取り組まなければならない課題であるが、まず、九都県市が一体となって取り組むことで、風しん対策のムーブメントを全国へ広げることが期待できる。

そこで、都県民、市民に対して、九都県市共同で予防接種促進のための広報戦略を展開するとともに、今後、より効果的な対策として、企業を介した社員への働きかけ、医療機関を介した予防接種の勧奨や、都県民、市民に対する接種を受けやすい環境づくりについて、九都県市で検討を進めることを提案する。

# 風しん撲滅に向けた九都県市共同での取り組みについて

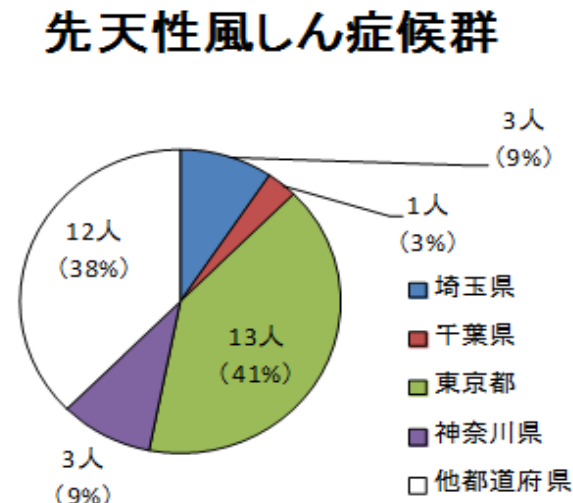
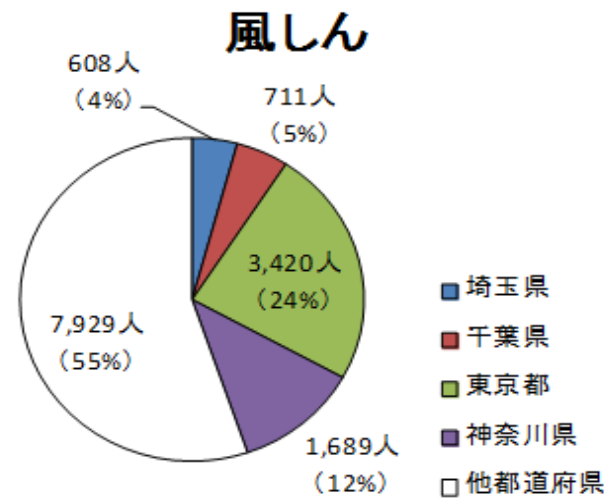
## 提案の趣旨

### 1 風しんの状況

- 平成 25 年に大流行し、現在は、表面上、沈静化しているが、抗体を保有していない者が、20～40 代を中心に全国で約 475 万人（男性 397 万人、女性 78 万人）いると推計されている。（平成 24 年感染症流行予測調査結果より）
- 今後も周期的に流行する可能性が高く、平成 32（2020）年の東京五輪など、多くの人を訪れる際に、感染が拡大することも懸念される。
- 特に、九都県市では、患者数、先天性風しん症候群※共に多い。  
※ 妊娠初期にり患すると、難聴や心疾患、白内障や緑内障などの障害がある赤ちゃんが生まれる「先天性風しん症候群」の発生確率が高い。（7～12 週で 80%）

#### 平成 25 年の国内発生数における九都県市の割合

風しん (全国) 14,357 人 ⇒ (九都県市) 6,428 人 (44.8%)  
 先天性風しん症候群 (全国) 32 人 ⇒ (九都県市) 20 人 (62.5%)



- 先天性風しん症候群の危険性が広く認識されておらず、20～40 代が社会人として多忙で、接種費用も高額（10,000 円前後）なことから、接種が進まない状況にある。
- 米疾病対策センターは、平成 25 年のワースト流行国にポーランド、ルーマニアとともに日本を選出し、3 月まで渡航注意情報（レベル 2：渡航の際は積極的な予防等をとる）を発していた。
- 国は、平成 26 年 4 月から「風しんに関する特定感染症予防指針」を施行したが、目標である平成 32 年度までの風しんの排除※の達成には、対策の実効性を高める必要がある。  
※風しんの排除・・・発生動向調査体制の下、日本に従来よりあるウイルス型による感染が、一年以上確認されないこと。

## 平成 26 年度 神奈川県の風しん対策

### 神奈川県の取り組み

このような状況から、神奈川県では東京五輪までに、①「神奈川県から風しんの流行を発生させない」、②「今後、妊娠する人から先天性風しん症候群を出さない」ことを目指し、平成 26 年度から「風しん撲滅作戦」を開始した。

#### 1 接種を受けやすい環境づくり

- 市町村ワクチン接種助成事業への補助  
（実施主体：市町村 市町村負担額の 1/3 を県が市町村に補助）
- 抗体検査の実施  
（実施主体：県又は保健所設置市 負担割合：国 1/2、県又は保健所設置市 1/2）

#### 2 接種の必要性を啓発

- 次のとおり効果的な広報戦略を展開
- 子供が先天性風しん症候群になったご家族が出演した実写映像やアニメ映像等を、インターネット、映画館等で配信
  - 人気漫画を用いたチラシや、NHK のキャンペーンロゴを使用したポスターを配架

#### 3 企業等への働きかけ

- 企業等へ働きかけ、従業員が接種しやすい環境づくりを依頼
- 取組みに積極的な企業は、フォーラムで表彰
- 県は率先して、共済組合と連携し、職員に抗体検査及び予防接種を促進

## 提案内容

神奈川県は平成 26 年度から取組みを開始したが、東京五輪開催まで九都県市で連携し、全国的なムーブメントを起こしていくことを提案する。なお、より効果的な対策を講じるため、今後、九都県市で検討を進める。

#### 【平成 26 年度から九都県市共同で実施】

- 本県が制作・入手した映像を、各都県市のホームページで公開
- 神奈川県で開催する予定のフォーラムを九都県市の共同事業として開催
- 本県が作成したポスター・チラシのデザインを用いて、予防接種促進のための広報活動を実施

#### 【九都県市で実施を検討】

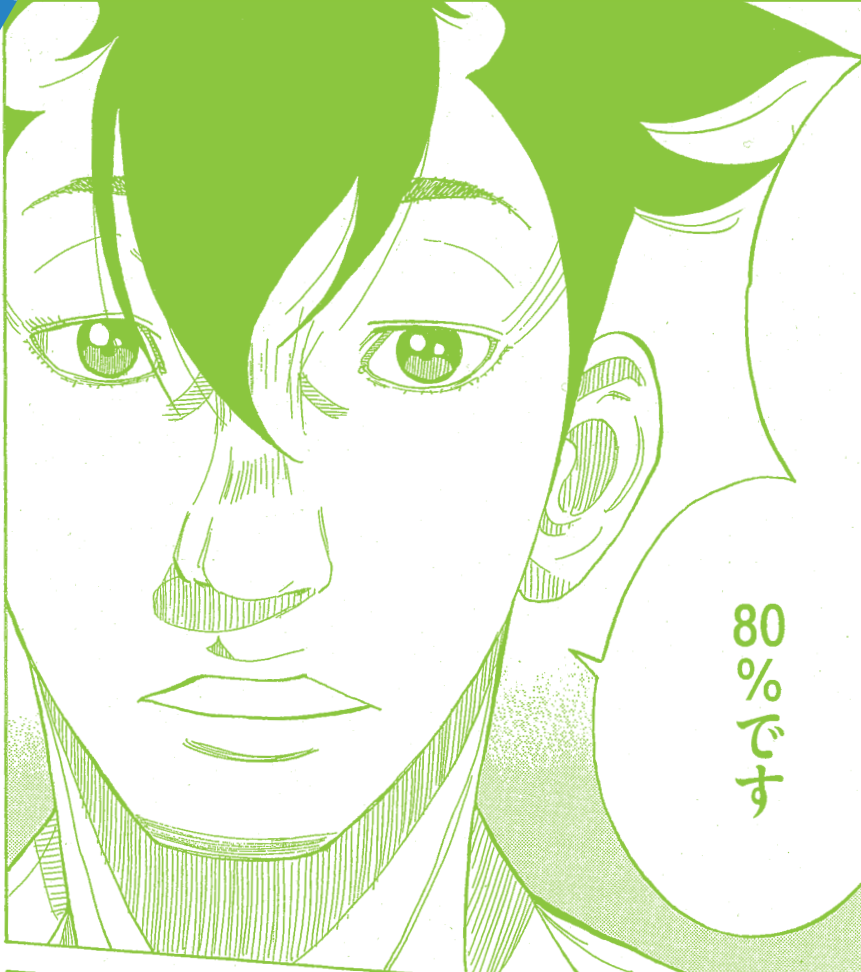
- 企業を介した社員への働きかけ、医療機関を介した予防接種の勧奨
- 都県民、市民に対する接種を受けやすい環境づくり



神奈川県

KANAGAWA

神奈川県 & コウノドリ コラボ企画



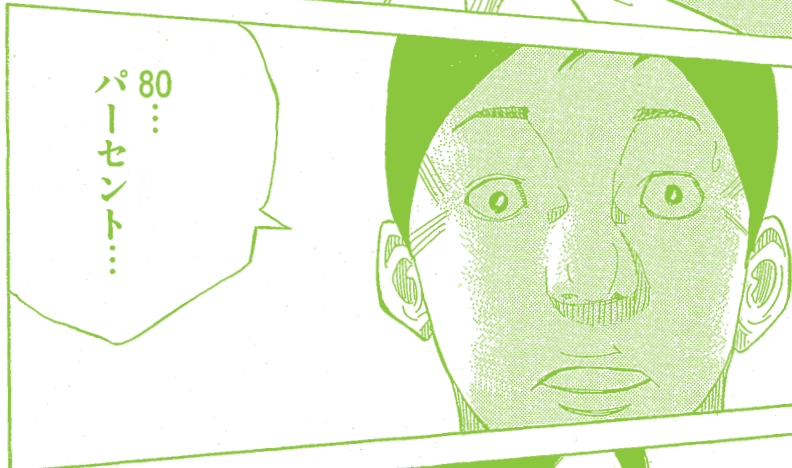
その赤ちゃんが  
先天性風疹症候群に  
なる確率は

妊娠7週の  
奥さんが  
風疹にかかった  
場合：

80%  
です

# コウノドリ

Childbirth is not  
a disease.  
But we don't know  
what may happen.  
Therefore we need  
an obstetrician.



80%  
パーセント…



そんなに…

#43

presented by

鈴木木ユウ

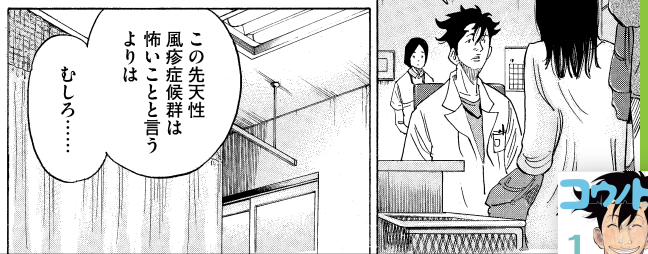
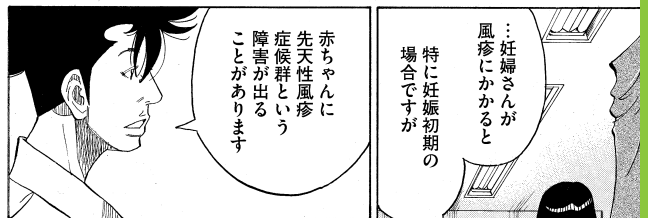
神奈川県 風しん撲滅作戦展開中

© 鈴木木ユウ / 講談社

風しんは予防接種で防ぐことができます  
風しんの詳細については裏面へ

先天性風しん症候群の発生頻度について：妊娠4～6週では100%、7～12週では80%、13～16週では45～50%、17～20週では6%、20週以降では0%という報告があります。（『産婦人科診療ガイドライン産科編 2014』より）





© 鈴木木ユウノ講談社

年間100万人が誕生する産科を舞台に、妊娠・出産のリアルを伝える医療漫画。  
モーニング KC『コウノドリ』鈴木木ユウ 第1巻～（以下続刊）好評発売中



### 風しんとは

発熱や発疹、リンパの腫れを特徴とするウイルスによる感染症です。  
三日麻疹（みっかはしか）とも呼ばれます。

### 風しんの問題点

妊娠 20 週頃までの妊婦が風しんにかかると、  
お腹の中の赤ちゃんに難聴や心疾患、  
白内障などの障害（先天性風しん症候群）を  
引き起こす可能性があります。

### 風しんが流行しない 社会を作る

先天性風しん症候群を防ぐためには、  
風しんが流行しない  
社会を作る必要があります。

## 神奈川県は風しん撲滅作戦を展開しています。

2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催までに

①「神奈川で風しんの流行を発生させない」②「今後、妊娠する人から先天性風しん症候群を出さない」ことを目指しています。

## 風しんは予防接種で防ぐことができます。

### 大人の予防接種を

自分と家族、そして周りの人々への風しんの感染を予防し、  
生まれてくる赤ちゃんを先天性風しん症候群から守るためにも、これまで  
風しんの予防接種を受けたことがない人は、是非、接種してください。

## 風しん予防接種の費用助成や抗体検査の制度があります！（一部地域を除く）

費用助成の実施期間・金額、抗体検査実施の有無等については、自治体により異なります。

詳しくは神奈川県ホームページをご覧くださいか、

お住まいの市町村の予防接種の担当までお問い合わせください。

神奈川県 風しん 検索





# ストップ風しん



おもいやり  
あなたの予防接種で赤ちゃんを  
障害<sup>\*</sup>から守ることができます。

©ストップ風疹 プロジェクト

神奈川県

# 風しん撲滅作戦展開中

※ 妊娠初期の女性が、風しんにかかると、  
胎児に難聴や心疾患、白内障などの障害が生じることがあります。  
これを「先天性風しん症候群」といいます。

神奈川県 風しん